

先端領域若手研究リーダー育成拠点 (実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：山梨大学（総括責任者：前田 秀一郎）

プロジェクトの概要

テニユアトラック制度を導入して若手研究リーダー育成システムを確立し、人事制度の改革と世界的研究拠点の形成を目指す。「先端領域若手研究リーダー育成拠点」を設置し、若手研究者に本学が世界に誇る最先端の研究領域において、豊かな研究費、複数メンターによる研究指導・支援、十分な研究スペースを提供することにより若手研究リーダーを育成する。採用審査とテニユア審査のために学外委員を含む教員審査委員会を組織し、透明性の高い人事審査を行う。テニユアポストを確保し、高いテニユア取得率を目指す。3年目に本制度の中間評価を行い、4年目に工学系全体に普及させる。終了時には医学系を含む大学全体の人事制度の更なる改革を進める。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価： A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

小規模大学の特徴と優れた環境条件を活かした世界的研究拠点を担う若手人材育成サイクルを構築し、テニユア像を「成熟型拠点展開」と「次世代拠点創生」の二つの特徴的な人材育成ステップに対応付け、世界研究拠点の「核」となる研究リーダーの養成という目標に従ってプロジェクトを推進している。計画通りにテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）を採用し、育成環境も十分に整備され、また、「国際サイエンスカフェ」を新設して、TT 若手が自ら企画し、ネットワークの構築など国際的素養の養成に積極的に取り組むと共に、アウトリーチ活動も活発に行われていることは評価できる。また、外部評価委員会を設置し、学長のリーダーシップが発揮され、PDCA サイクルを活かして運用しており、今後のテニユアトラック制（以下、「TT 制」という）の機関内への普及・定着を期待する。

- 目標達成度**：TT 若手の選考、育成、テニユア採用へのコンセプトは明確で、医工学融合世界最先端分野で「成熟型拠点展開ステップ」と「次世代拠点創生ステップ」二つのステップのスパイラル効果により、機関の次世代を担う「種」と「核」となるリーダーを育成するという目標を達成している。学長直属の TT 制「運営委員会」が企画戦略を担うことでシステムが構築され、選抜された TT 若手の業績も高く、初年度に採用した 6 名全員がテニユア審査に合格しており、初期の目標を達成しており評価できる。
- 国際公募・選考・業績評価**：公募・選考方法は、学長のリーダーシップの下に設置した拠点運営委員会で策定し、選考は、部局長のほか少なくともそれぞれ 1 名以上の外部審査委員と外国人審査委

員を加えた教員審査委員会作業部会において行い、厳正で透明性の高い選考のシステムが構築されている。年次・中間評価、テニユア審査は教員審査委員会作業部会と教員審査委員会によって行われ、目的別研究拠点の創成、展開に重点を置いた評価を行い、全員がテニユア審査に合格するなど、公正で透明性の高い審査と構築された TT 若手の養成システムは評価できる。しかし、応募者数は比較的少数にとどまっており、女性研究者の応募数の増加なども含め、優秀な人材の確保に繋げる対策などを期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：医工学融合世界最先端分野において複数の TT 若手を採用し、「成熟型拠点展開」、「次世代拠点創成」の両方において研究リーダーを養成しようとする目標を明確にし、若手研究者の養成システムを構築していることは評価できる。特に、「主メンター」、「サブメンター」、「先駆者メンター」の三分野のメンターを配置し、国際シンポジウムや国際サイエンスカフェを自ら運営することで TT 若手の研究活動が活性化したことは評価でき、これらの工夫が今後の全学展開に活かされることを期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：学長のリーダーシップの下、中間評価などの評価段階における課題の抽出を行い、機関が目的とする人材養成のために研究環境の整備を行っているなど制度そのものの見直しも進められ、また、TT 制を導入している他大学の有識者で組織した外部評価委員会を創設し、その指摘に基づく改革も進めていることなどは評価できる。国際シンポジウムを利用したサイエンスリテラシー教育を進めるなど、時代に即した養成システムへの工夫などが今後も活かされることを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：TT 制を工学分野から全学へ広げ、「山梨大学先端領域若手研究リーダー育成拠点」を設置して、引き続き TT 制による次世代を担う若手研究リーダーの育成システムの継続展開を目指している点は評価できる。今後、先行する工学分野での TT 制の成果を活かしつつ、医学系分野を含む全学に新しい養成システムの展開を期待する。
- **中間評価の反映**：女性研究者の採用に向けた募集要項の改訂など中間評価は概ね適切に対応しているが、今後 TT 若手が更に国際的に活躍できるように高いレベルでの研究推進支援などが継続して進められることを期待する。